

(2005年11月号)

目 次

繊維情報

・2005年9月の繊維品輸出概況(繊維品全体・原料・織編物・主要二次製品)	1
・2005年8月の繊維品輸入概況(繊維製品計・糸類・織物類・衣類)	8
・アジア 中国 2005年1～8月の繊維品貿易・輸出は大幅増、輸入は低調	11
インドネシア 2005年1～6月の繊維品貿易・輸出は大幅増、輸入は微増	16
・米州 米 国 米中繊維交渉、合意に達する	19
2005年8月の繊維品輸入、3カ月ぶりの二桁増	24
2005年9月の大手小売店販売、引続き堅調	26
木製梱包材規制、米国4州政府が農務省を提訴	28

組合関係の会議と催事

・(2005年10月)(2005年11月のスケジュール)	29
------------------------------------	----

組合業務報告

・(輸入)日本黄麻製品輸入協議会「エコプロダクツ国際展2005」視察ミッション概要	31
・(輸入)中国アジア専門委員会「中国西部地区調査視察ミッション」概要	32
・(輸入)「アパレル生産の実際知識研修会」(関西地区)の開催概要	34

お知らせ

・繊維品の包括保険の「保険責任期間終了」と「保険期間延長手続き」(輸出)	35
・「サウジアラビア」向け保険引受方針変更(輸出)	36
・税関の「特定輸出申告制度」	36
・輸出組合本部(大阪)の組織変更	39
・12月の輸入通関手続相談窓口開設日(輸入)	40

組合員情報

・組合員情報	40
・海外取引照会・展示会案内	41



2005年9月の繊維品輸出概況

・繊維品全体の輸出

- 前年同月比4%減の6億5,094万ドルと3カ月連続の減少 -

2005年9月の繊維品輸出は、ドルベースで、前年同月比4%減(1-9月前年同期比:1%減)の6億5,094万ドルとなった。今年上半期は増勢基調で推移してきたが、下半期に入り、7月、8月、9月と3ヶ月連続して減少傾向となっている。

なお、為替は2004年9月の110.01円に対し、2005年9月は111.06円と若干の円安推移となっており、円ベースでは3%減(同2%減)の722億9,400万円となっている。

< 主要地域別輸出 >

9月の輸出を主要地域別に見ると、全輸出の77%を占め、わが国の輸出動向を左右する最大市場の東アジア向けが前年同月比5%減(同2%減)の4億9,330万ドルとこの3ヶ月減少に転じ、全体の輸出減少の地域的な大きな要因となっている。

東アジアの主要国向けでは、韓国、ベトナム、タイは好調に推移したが、最大市場の中国を始め、香港、台湾、シンガポール、マレーシア、フィリピン、インドネシアが減少推移となった。

純輸出市場向けは、シェア3%の西アジアは、サウジアラビアは先月に続き好調をキープしているが、アラブ首長国が大きく減少し、全体として16%減(同2%減)の2,593万ドルと低調な推移となった。

欧米市場は、シェア8%のEUは横ばい(同4%増)の5,538万ドルに止まったが、シェア7%の米国は7%増(同3%増)の4,807万ドルと前月に続き増勢推移となった。

< 主要商品別輸出 >

9月の輸出を主要商品別にみると、まず綿類の輸出は、全体としては、数量で6%減(同2%減)、金額で2%増(同8%増)と、数量減の金額微増となった。太宗の合繊綿は、数量で6%減(同2%減)、金額で4%増(同11%増)となった。この内、主力のアクリル綿は、最大輸出先の中国を含む東アジアは、ほぼ横ばいで推移したが、イランが不振で、全体としては、数量で4%減(同1%減)となった。但し、単価のアップにより金額では8%増(同12%増)となった。

一方、ポリエステル綿は、タイ、マレーシアは健闘したが、中国、EU、米国が落ち込み、数量で17%減(同10%減)、金額で8%減(同2%増)となった。

織維品輸出実績(2005年9月)

単位	2005年9月						2005年1月～9月						2004年実績		
	数量	金額		前年同月比		数量	金額		前年同期比		数量	金額			
		百万円	千ドル	数量	ドル		百万円	千ドル	数量	円		ドル	百万円	千ドル	
織維品総合計	36,340	72,294	650,944	96	94	316,599	6,033,074	98	99	427,993	900,766	8,330,992			
原料(綿)合計	5,043	9,354	84,227	102	102	316,599	743,065	98	108	427,993	99,966	923,956			
スフ綿	28,306	1,889	17,008	103	98	46,975	156,927	97	99	66,597	23,267	215,237			
合繊綿	4,035	7,236	65,156	104	104	242,478	565,396	98	110	321,629	73,095	675,403			
(ポリエステル)	21,885	685	6,170	92	83	34,584	55,184	90	101	51,865	8,007	74,063			
(アクリル)	11,536	5,369	48,339	96	108	185,780	44,237	99	111	243,538	52,514	485,070			
糸 合計	1,101	8,168	73,547	97	102	99,964	655,759	101	103	135,543	94,082	870,337			
人絹糸	18	26	237	44	45	225	2,925	91	73	372	7,864	72,916			
スフ糸	9,386	6,260	56,369	95	99	81,614	509,054	101	102	110,548	73,641	681,155			
合繊長糸	1,809	1,318	11,866	78	88	18,037	116,257	92	97	27,504	17,566	162,369			
(ナイロン)	3,562	1,522	13,704	95	97	30,670	124,961	101	110	40,805	16,719	154,685			
(ポリエステル)	347	298	2,686	70	90	3,308	2,627	74	83	5,733	4,164	38,476			
合繊短糸	480	326	2,932	103	103	3,791	2,787	117	114	4,854	3,756	34,881			
綿糸	94,188	27,578	248,316	94	90	892,751	2,412,620	95	94	1,295,836	384,270	3,557,638			
絹織物	657	1,083	9,753	109	99	5,958	9,920	112	100	7,280	13,304	123,079			
人絹織物	8,210	2,238	20,153	120	100	61,170	171,739	106	93	77,844	26,662	246,677			
スフ織物	987	275	2,480	102	72	9,297	3,688	80	75	16,372	6,923	64,317			
合繊長織物	45,320	9,405	84,684	94	94	420,021	89,140	824,521	93	611,549	129,896	1,201,387			
(ナイロン)	4,783	990	8,917	113	116	43,035	8,574	79,242	107	55,195	11,163	103,187			
(ポリエステル)	36,177	7,216	64,971	92	95	331,822	66,945	618,844	90	493,931	98,356	909,292			
合繊短織物	12,039	2,822	25,406	86	87	122,068	28,856	267,525	102	166,635	39,208	363,303			
綿織物	20,570	6,846	61,647	90	86	232,405	79,777	742,196	92	354,304	123,887	1,149,181			
毛織物	6,291	4,842	43,600	91	88	39,052	28,354	260,598	93	58,795	42,026	387,539			
不織布	54,421	4,629	41,682	107	106	426,522	40,495	375,472	102	574,520	51,660	477,610			
タイヤコード織物	1,105	209	1,884	92	121	12,337	2,051	19,035	115	133	2,190	20,254			
コーテッド織物	1,292	3,205	28,854	93	104	13,636	32,448	300,388	104	105	41,001	378,474			
ニット生地		4,921	44,307	103			47,308	437,821	104	105	61,999	573,419			
アパレル		4,044	36,409	73			30,376	281,853	74	75	53,076	489,518			
その他		10,186	91,718	107			87,175	807,061	104	105	112,522	1,039,786			

(注) 1. 織維品総合計は、HS関税分類11部の合計。 2. 原料(綿)、糸、織物合計は分類番号50類から55類までのそれぞれの合計。
 3. アパレルは61類(ニット製衣類)と62類(布帛製衣類)を合算したもの。 4. その他は、63類及び65類～59類の一部商品。

その他の合繊綿では、ビニロン綿は、主力の EU 向けが減少し、数量で 4% 減（同 8% 増）但し金額では 2% 増（同 13% 増）となった。

スフ綿はアフリカが大幅増となったが、主力の中国が減少し、数量で 2% 減（同 3% 減）となった。但し、単価アップにより金額で 3% 増（同 1% 減）となった。

糸類の輸出は、数量で 3% 減（同 1% 増）、金額で 2% 増（同 4% 増）と綿類同様、数量減の金額微増となった。

主力の合繊長糸は数量で 5% 減（同 1% 増）、金額で 1% 減（同 2% 増）となった。その内訳は、ポリエステル糸は、中国を中心とする東アジア、米国、EU が共に振るわず、数量で 5% 減（同 1% 増）、金額で 3% 減（同 11% 増）となった。一方、ナイロン糸は、タイは好調に推移したが、中国、フィリピン、EU が大きく後退し、数量で 22% 減（同 8% 減）、金額で 12% 減（同 1% 減）となった。その他の合繊長糸では、ポリウレタン糸は中国、香港等東アジアが振るわず、数量で 3% 減（同 7% 減）、金額では 28% 減（同 19% 減）となった。

一方、人絹糸は、主力の中国、韓国、EU 向けにキュプラが大きく伸び、数量で 29% 増（同 19% 増）、金額で 49% 増（同 29% 増）と大幅な増加となった。

太宗の織物類の輸出は、数量で 6% 減（同 5% 減）、金額で 10% 減（同 6% 減）と数量、金額共に引き続き低調な推移となった。

織物の内訳では、中心品目のポリエステル長繊維織物は、数量で 8% 減（同 10% 減）金額では 5% 減（同 7% 減）となった。

地域的には、全体の 72% を占める東アジア向けは、タイが好調に推移したが、中国、香港、ベトナム、台湾、韓国等主要国は軒並み振るわず、東アジア全体として 7% 減（同 7% 減）となった。

一方、純輸出市場向けは、西アジアは、サウジアラビア、アラブ首長国が揃って減少推移となり、西アジア全体として 23% 減（同 9% 減）と前月の大幅増加から一転して大幅な減少となった。

欧米市場向けは、明暗を分け、EU 向けは 4% 減（同 13% 減）と引き続き低迷しているが、米国は 5% 増（同 26% 減）と若干の増加となった。

ナイロン織物は、数量で 13% 増（同 7% 増）、金額で 16% 増（同 3% 増）と数量、金額共に 2 桁の増加となった。シェア 80% の東アジア向けは、主力の中国が好調に推移、ベトナムも激増し、香港が大幅減となったが、全体として 19% 増（同 10% 増）となった。一方、シェア 10% の米国も 37% 増（同 3% 減）と先月に続き大幅な増加となった。

綿織物は、数量で 10% 減（同 8% 減）、金額で 14% 減（同 7% 減）と数量、金額共にこの 3 ヶ月続いて 2 桁の減少となった。82% のシェアを占める最大市場の東アジア向けは、ベトナム、タイ、マレーシアは大幅に増加したものの、中心市場の中国、香港が減少し、東アジア全体として 6% 減（同 7% 減）となった。その他の市場では、シェア 11% の米国は 21% 減（同 14% 減）、シェア 3% の EU は 20% 減（同 2% 増）と何れも大幅に減少した。

ポリエステル短繊維織物も、数量で 12% 減（同 3% 増）、金額で 11% 減（同 3% 増）と数量、

金額共に 2 桁の減少となった。全体の 64%を占める東アジア向けは、香港、ベトナムが健闘したが、最大国の中国が減少し、東アジア全体として 10%減（同 1%減）となった。一方、シェア 34%の民族衣装用の西アジアは、サウジアラビア、クエートが増勢で推移したが、アラブ首長国が大幅に減少し、西アジア全体として 13%減（同 13%増）とポリ（長）織物と同様、先月の大幅から一転し 2 桁の減少となった。

人絹織物は、生機・ブリーチ品の増加により、数量で 20%増（同 6%増）と大きく増加したが、金額は横ばい（同 6%減）に止まった。シェア 73%の東アジアは、韓国は激減しているが、香港が激増し、中国も堅調で、東アジア全体として 31%増（同 11%増）となった。また、シェア 11%の西アジアは、アラブ首長国は健闘したが、サウジアラビアが半減し、全体として 10%減（同 2%増）となった。一方欧米市場は EU が 9%増（同 12%減）、米国は 13%減（同 30%減）と対照的な推移となった。

毛織物は、数量で 9%減（同 7%減）、金額で 12%減（同 7%減）と数量、金額共に不振推移となった。地域的には、東アジアが 97%とほぼ全量を占めている。香港、ベトナム、台湾は好調に推移したが、圧倒的なシェアを占める持ち帰り用の中国が減少し、東アジア全体として 9%減（同 7%減）となった。

不織布の輸出は、数量で 7%増（同 2%増）、金額で 6%増（同 8%増）と堅調な推移となった。全体の 62%を占める東アジアは、主要国の中国は健闘しているが、香港、韓国、台湾が揃って不振で、全体として 23%減（同 16%減）と大幅な減少となった。一方、欧米市場は、シェア 7%の EU は 6%増（同 29%増）と小幅の増加に止まったが、シェア 27%の米国は 162%増（同 85%増）と驚異的な伸びとなり、量的には最大の輸出市場となっている。

コーテッド織物の輸出は、数量で 7%減（同 4%増）、金額で 4%増（同 5%増）と数量減の金額増となった。全体の 80%を占める東アジアは、ベトナム、タイは好調に推移したが、最大市場の中国、香港が減少し、全体として 3%減（同 1%増）となった。欧米市場は、シェア 7%の米国は 33%減（同 38%増）、一方シェア 5%の EU も 5%減（同 2%減）と共に低調な推移となった。

ニット生地の輸出は、数量で 4%減（同 2%増）、金額で 3%増（同 5%増）と数量減の金額増となった。全体の約 9 割強を占める東アジア向けは、主要国別では、最大市場の中国、ベトナムが増加推移、一方、香港、韓国、台湾、インドネシアは減少推移となった。欧米市場向けは、米国は 105%増（同 80%増）と大幅増となったが、EU は 21%減（同 20%増）と大きく落ち込んだ。

アパレルの輸出は、金額で 27%減（同 25%減）と大幅な後退が続いている。

内容的には、布帛製衣類の外衣類は、台湾、香港、米国が好調で、金額で 12%増（同 9%増）となった。下着類は、韓国は健闘したが、台湾、香港、中国が大幅に減少し、金額で 32%減（同 23%減）と大幅な減少となった。

一方、ニット製衣類は、ニット製衣類輸出の主力であった香港向けのニットパネル（最終中国で編み立て後米国向け）の輸出が、2005年からの米国の対中国枠の撤廃により、激減状況が続いており、外衣類は金額で42%減（同52%減）、下着類も53%減（同42%減）と各々大幅な減少となっている。

原料（綿・糸）の輸出

<綿輸出>

合繊綿、スフ綿などの綿合計は、主要品目では主力のアクリル綿をはじめ、ポリエステル綿、ビニロン綿、スフ綿いずれも減少推移となり、全体では6%減の36,340トン、金額については2%増の8,422万ドルとなった。

<糸輸出>

糸は、人絹糸、毛糸、綿糸が増加推移となったが、合繊短繊維糸、主力の合繊長繊維糸が減少推移となり、全体では3%減の11,536トン。金額については2%増の7,354万ドルとなった。

2005年9月の原料（綿・糸）の輸出状況

単位：トン、千ドル、セント、%

	2005年9月				2005年1～9月			
	数量	前年 同月比	金額	単価	数量	前年 同期比	金額	単価
スフ綿	5,043	98	17,008	337	46,975	97	156,927	334
合繊綿	28,306	94	65,156	230	242,478	98	565,396	233
ポリエステル	4,035	83	6,170	153	34,584	90	55,184	160
アクリル	21,885	96	48,339	221	185,780	99	409,795	221
他合繊綿	2,385	97	10,646	446	22,114	108	100,416	454
人絹糸	1,101	129	7,435	675	9,527	119	64,294	675
合繊長糸	9,386	95	56,369	601	81,614	101	509,054	624
ナイロン	1,809	78	11,866	656	18,037	92	116,257	645
ポリエステル	3,562	95	13,704	385	30,670	101	124,961	407
他合長糸	4,015	107	30,800	767	32,906	106	267,835	814
綿糸	480	103	2,932	611	3,791	117	25,865	682

・織・編物（絹・化合織・綿・毛）の輸出

2005年9月の織物（絹・化合織・綿・毛）の輸出は、ナイロン織物等一部品目は健闘したが、ポリエステル（長・短）織物を始め、綿織物、毛織物の主要織物が低調な推移となり、織物トータルで、数量で前年同月比6%減（前年同期比5%減）、金額で10%減（同6%減）となった。

なお、この織物トータルの中に含まれていないが、ニット生地、コーテッド織物はいずれも数量減の金額増となった。

2005年9月の織物の輸出状況

単位：1,000SM、1,000\$、前年比は数量比%

	2005年9月			2005年1-9月		
	数量	金額	前年同月比	数量	金額	前年同期比
絹織物	657	9,753	109	5,958	92,009	112
人絹織物	8,210	20,153	120	61,170	171,739	106
スフ織物	987	2,480	102	9,297	34,290	80
合織（長）織物	45,320	84,684	94	420,021	824,521	93
ポリ（長）織物	36,177	64,971	92	331,622	618,844	90
ナイロン織物	4,783	8,917	113	43,035	79,242	107
合織（短）織物	12,039	25,406	86	122,068	267,525	102
ポリ（短）織物	10,963	23,063	88	112,101	246,601	103
綿織物	20,570	61,647	90	232,405	742,196	92
毛織物	6,291	43,600	91	39,052	260,598	93
コーテッド織物	1,292	28,854	93	13,636	300,388	104
ニット生地	13,287	44,307	96	130,915	437,821	102

（注）1.ポリエステル（長）、ナイロン（長）織物は、ポリエステル、ナイロンの重量が全体の85%以上の織物。

2.コーテッド織物の数量単位はトン。

市場的には、織物トータルで、主力の東アジアは、主要国では、ベトナム、マレーシアが数量、金額共に前年同月を上回り好調に推移したが、最大市場の中国を始め香港、韓国、台湾、インドネシア、フィリピン、インドネシアは数量、金額ともに前年同月を下回り低調な推移と

なった。特に中国の停滞が先行きの懸念材料。

純輸出市場では、西アジアは、サウジアラビアが数量、金額共に増加したが、アラブ首長国が前月の大幅増加から一転して数量、金額共に大幅な減少推移となった。

一方、欧米市場は、米国は綿織物が振るわず、また EU は主力のポリエステル（長）織物が振るわず、数量、金額共に減少推移となった。

.主要繊維二次製品の輸出

繊維二次製品の 2005 年 9 月の輸出は、金額（ドル）ベース（以下同じ）で、アパレルは総じて振るわず、布帛製外衣が前年を上回った他は、布帛製下着、メリヤス製外衣・下着いずれも大きく減少推移となり、全体では前年同月比 27%減となった。他方、その他の品目については、敷物、漁網・その他の網・網地、細幅織物・紐類、いずれも増加推移となった。

2005 年 9 月の主要繊維二次製品輸出状況

単位：千米ドル、 金額：前年比%

	2005 年 9 月		2005 年 1～9 月	
	金 額	前 年 同月比	金 額	前 年 同期比
布帛製衣類・付属品	18,661	92	155,336	95
外 衣	11,833	112	92,641	109
下 着	3,942	68	33,166	77
スカーフ・マフラー	785	88	5,888	112
ニット製衣類・付属品	17,748	60	126,517	60
外 衣	7,754	58	40,390	48
下 着	6,223	47	59,004	58
敷 物	3,059	127	24,132	117
漁 網 ・ 網 ・ 網 地	2,530	143	28,435	117
細 幅 織 物 ・ 紐 類	14,763	103	140,345	105

2005年8月の繊維品輸入概況

1. 繊維製品計

8月の輸入は、金額が円ベースで前年同期比111.2%（前月比は134.4%）、ドルベースで同110.8%（前月比は135.9%）、数量(重量)で同106.6%（前月比は127.7%）と、円・ドル金額が4ヶ月ぶりに減少した前月から再び増加、数量も4ヶ月ぶりの減少となった前月から増加に転じた。前月比は、秋冬物の輸入時期を迎え金額、数量ともに大幅増となった。

糸類は、数量で前年同期比17.5%減と前月より減少幅を戻したものの3ヶ月連続で減少、内訳は、絹糸、毛糸、綿糸、人織(長)糸、人織(短)糸、その他の糸全ての品目で減少した。織物類は同11.9%増と4ヶ月ぶりに減少した前月から再び増加、糸類とは対症的に絹織物、毛織物、綿織物、黄麻織物、人織(長)織物、人織(短)織物、メリヤス生地、その他の織物の全ての品目が増加した。衣類は同8.3%増と3ヶ月ぶりに減少した前月から再び増加。衣類を除くインテリア用品等二次製品は同15.1%増と10ヶ月続けて増加した。

前月は円金額が1.3%、ドル金額が3.6%、数量が6.3%それぞれ減少したが、今月は円金額が11.2%、ドル金額が10.8%、数量が6.6%それぞれ増加、前月減少の反動から大きな伸びを示した。円金額の内訳を見ると、二次製品が18.3%の大幅増となり引き続き増加を続けており、太宗を占める衣類も11.7%の増、織物類も13.2%増となったが、糸類は18.3%減少し、繊維製品計では11.2%の増加となった。

2. うち糸類

➤ 綿糸の輸入実績は、トンベースで前月比2.2%の増加となったものの、前年同月比は36.6%の大幅減少となり3ヵ月連続のマイナスとなった。これは7月同様、夏の需要の閑散期に加え契約時期の4~5月が国内マーケット最悪の状態であったことにより、契約を大幅に手控えたことによるものである。全体の90%近くを占める純綿糸の輸入を前月に比較すると、国別では主力のパキスタンが13.4%の減となったものの、2位のインドネシアが17.7%、3位のインドも2.4%それぞれ増加した。番手別では、20番手中心が6.2%減、30番手中心が12.3%増、40番手以上が5.0%増となった。糸種別では、カード糸が9.6%減となったものの、コマ糸は7月が今年最低の水準であったこともあり18.5%の大幅増加となった。

➤ 毛糸の輸入実績は前年同月比重量ベース15.8%減と前月よりも減少幅が大きくなり、11ヶ月連続の減少となった。糸種別に見ると、紡毛糸の輸入が同24.7%減と3ヶ月続けて大きく減少し4ヶ月連続の減少となり、太宗を占める梳毛糸も同15.2%減と前月に続けて減少。国別では、トップシェアの中国が同15.0%減と3ヶ月ぶりに増加した前月から再び減少、次ぐマレーシアは19.8%の増加となった。この他では、イタリア、ペルーから

の輸入が引き続き増加した一方、台湾、タイからの輸入が前月同様減少した。

- 人織系の輸入実績は、トンベースで人織(長)糸が前月比 6.6% 増となったものの、前年同月比は 8.8% のマイナスとなった。主要商品を前月に比べると、主力の台湾などからのポリエステル糸が 9.9% 増、米国、中国からのナイロン糸が 2.4%、量的に少ない中国を中心とする人絹糸も 1.9% それぞれ減少となった。一方、人織(短)糸は主力商品の T/C, T/R でインドネシアなどからのポリエステル紡績糸が 6.2% の増、インドネシア、中国からのマイヤー毛布のアクリル紡績糸 9.5%、ガムテープ向けのスフ糸も 29.5% と軒並み増加となり、全体では 12.8% のプラスとなった。前年同月比は 1.9% の微減に留まったものの、19 ヶ月連続のマイナスとなり、短糸輸入の低落基調は続いている。

3. うち織物類

- 綿織物の輸入実績は、面積ベースで前月比 24.5%、前年同月比も 7.5% 増とそれぞれ増加となった。これは 7 月が今年最低水準の輸入であったことに加え中国品の値上げ前の前倒し通関によるものである。国別で前月に比較すると、全体の 8 割近くを占める中国が 27.0% の大幅増となったのをはじめ、2 位のインドネシア 47.5%、3 位のパキスタン 12.3% と主要国が軒並み増加となった。品種別にみると主要 3 大商品は、ポプリン 58.2%、粗・細布も 57.8% の大幅増となったものの、金巾は 1.2% の微減となった。
- 毛織物の輸入実績は、面積ベースで前年同月比 16.7% 増と、3 ヶ月ぶりに増加した。イタリアからの輸入が同 2.0% 増と 2 ヶ月ぶりに増加したのに加え、中国からの輸入も前月の 4.7% 減から 32.3% の大幅増となったことによる。品種別では、紡毛織物が同 35.5% 減と 3 ヶ月連続の減少となったものの、主力の梳毛織物が同 34.6% の大幅増と 4 ヶ月ぶりに増加した。
- 人織織物の輸入実績は、面積ベースで人織(長)織物が前月比 11.7%、前年同月比も 15.0% とそれぞれが 2 桁の増加となり、前年同月比は 10 ヶ月連続のプラスとなった。品目別に前月に比較すると、量的に少ないナイロン織物がマイナス 3.8% となったものの、主力商品のポリエステル織物が 20.7% のプラスとなり、ポリプロピレン織物などその他はほぼ前年並みとなった。国別にみると 2 位の韓国が 9.9% の減少となったが、首位の中国が 6.0%、台湾 74.8%、ベトナムなどその他も 29.8% の増加となった。一方、人織(短)織物はスフ織物が 4.7% の減少となったが、主力の T/C, T/R のポリエステル織物が 8.2%、量的に少ないアクリル織物も 17.7% の増加となったことにより、全体では 4.9% のプラスとなり前年同月比も 2 ヶ月ぶりに増加となった。

4. うち衣類

ニット製衣類が対前年同月比枚数で 12.0% 増、布帛製衣類も同 10.0% 増、身の廻り品も重量ベース 22.4% 増となり、衣類計では重量ベース 8.3% 増となった。ニット製衣類が 2 ヶ月ぶり

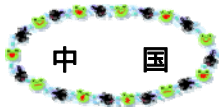
に増加、布帛製衣類も2ヶ月ぶりに増加、身の廻り品も2ヶ月ぶりに増加し、衣類計も2ヶ月ぶりに増加となり各品目とも前月の減少から増加に転じた。

主要国別に見ると

- 中国は、対前年同月比枚数ベースでニット製衣類が13.0%増加し2ヶ月ぶりの増加、布帛製衣類も9.9%増加し2ヶ月ぶりに増加、身の廻り品は重量ベース27.4%増で10ヶ月連続の増加となった。今年1月から8月までの累計の衣類計(重量ベース)のシェアは90.7%となった(金額ベースでのシェアは80.4%)。
- 韓国はニット製衣類が同8.9%減少、布帛製衣類は106.7%増と5ヶ月連続での大幅な増加となり、ニット製衣類が17ヶ月連続の減少、布帛製衣類は5ヶ月連続で増加した。
- イタリアはニット製衣類が同9.2%減と8ヶ月連続で減少、布帛製衣類も5.0%減と3ヶ月連続で減少。
- ベトナムはニット製衣類が同32.6%増と4ヶ月続けて増加、布帛製衣類も19.0%増と4ヶ月連続で増加となった。
- 商品別には、ニット製衣類ではアンサンブル、ジャケット、ズボン、ドレス、スカート、アウターシャツ、スポーツウェア、下着類が増加、コート、スーツ、セーターが減少。布帛製衣類では紳士用はアンサンブル、ジャケット、ズボン、下着類が増加、コートが減少、婦人用ではスーツ、ジャケット、ドレス、スカート、ズボン、ブラウスが増加、コート、アンサンブル、下着類が減少した。

前月は数量、金額とも1~6%台の減少となったが、今月は数量が6.6%、金額も10%強の増加となった。これは、前月の輸入減に対する反動に加え、中国で欧米輸出に対する制限措置が講じられたことで対日輸出圧力が高まったことも考えられる。

国内マーケットは厳しい中にも少しずつ明るさが見え始めているようだが、為替市場では緩やかに円安が進行しており、今後は輸入品の採算面への影響や原油価格高による石油関連商品でのコスト負担も懸念材料である。



2005年1～8月の繊維品貿易・輸出は大幅増、 輸入は低調

【輸出】

- 24%増の692億7,485万ドル、8月単月は34%増 -

このほど発表された中国の海関統計によると、2005年1～8月の中国の繊維品輸出は、24%増の692億7,485万ドルとなった。

単月の輸出状況を見ると、枠フリーの時代に入り、1月は29%増、2月は34%増と大幅に伸び、3月は一旦4%増と大きく減速したが、4月は16%増、5月は23%増、6月は29%増、7月は24%増、8月は34%増と、特に8月は2月と同様、今年月間で最大の増加幅となり、依然大幅な増加が続いている。

< 品目別輸出状況 >

品目別では、中国の繊維品輸出全体の61%を占める最大輸出品目の衣料品及び同付属品の輸出は23%増の422億6,441万ドルとなった。内容的には、ニット製の衣料品及び同付属品が20%増の193億9,009万ドル、布帛製衣料品及び同付属品が25%増の228億7,432万ドルとなっている。

織物類の輸出も、数量で16%増の107億4,695万メートル、金額で18%増の98億8,362万ドルと好調を維持している。内訳は、前年は苦戦した最大品目の綿織物が、数量で20%増の34億9,168万メートル、金額で18%増の37億3,999万ドルと好調に推移、またポリエステル長繊維織物は、数量で11%増の33億4,650万メートル、金額で11%増の25億8,240万ドルと依然2桁の伸びを維持しているが、EUのダンピング実施の影響もあり、伸び率は昨年に比べ大きく減少傾向となっている。

その他の主要織物では、合繊短繊維織物が数量で18%増の22億856万メートル、金額で30%増の14億8,241万ドル、ニット生地が数量で11%増の60万5,263トン、金額で17%増の23億4,464万ドルとなっている。

糸関係の輸出は、特に合繊長繊維糸の増加が著しく、全体として数量で18%増の92万6,413トン、金額で17%増の33億8,342万ドルとなっている。内訳では、最大品目の綿糸は数量で11%増の32万1,648トン、金額で3%増の9億5,791万ドル、合繊短繊維糸は数量で1%減の22万6,402トン、金額で10%増の6億6,395万ドルとなっているが、合繊長繊維糸は大增産を背景に数量で80%増の23万9,075トン、金額で83%増の5億7,007万ドルと数量、金額共に大幅な増加となっている。合繊長繊維糸のうち、特にポリエステル長繊維糸は、数量で109%増の16万3,415トン、金額で146%増の2億8,357万ドルと激増しており、ナイロン糸も数量で46%増の5万6トン、金額で73%増の1億7,302万ドルと大幅な伸びとなった。

綿類の輸出は、綿花の輸出は激減しているが、羊毛及びポリエステル綿、スフ綿の輸出が大きく伸び、数量で40%増の22万8,423トン、金額で39%増の7億3,861万ドルと大幅に増加している。

< 国別輸出状況 >

地域別では、東アジアがシェア41%(1%減)を占め、西アジアが6%(17%増)、ヨーロッパが24%(59%増)、北米が18%(83%増)、中米が2%(3%減)、南米が2%(22%増)、アフリカが4%(29%増)、大洋州が2%(17%増)の市場構成となっている。

国別では、1位EU(122億8,006万ドル:67%増)、続いて米国(108億9,000万ドル:87%増)、日本(106億2,620万ドル:8%増)、香港(91億6,120万ドル:16%減)、韓国(24億548万ドル:6%減)の順で、この5大市場で全体の輸出の65%のシェアを占めているが、予想されたとおり、特に今年より枠が撤廃されたEU、米国向けが衣料品を中心に突出した伸びとなっている。

主要輸出品目別に国別輸出先を見ると、衣料品については、ニット製衣料品は、トップ市場は日本(40億3,445万ドル:13%増)、続いてEU(36億3,767万ドル:103%増)、米国(31億4,258万ドル:115%増)、香港(17億8,617万ドル:44%減)、ロシア(6億2,650万ドル:33%増)の順となっている。また、布帛製衣料品の輸出先は1位がEU(52億709万ドル:67%増)、日本(47億7,827万ドル:4%増)、米国(45億8,775万ドル:101%増)、香港(21億555万ドル:25%減)、ロシア(10億1,992万ドル:88%増)の順となっている。

織物類については、綿織物の主要輸出先は、香港(7億1,663万メートル:横ばい)、韓国(2億4,395万メートル:31%増)、バングラディシュ(2億2,807万メートル:22%増)、ベニン(2億2,147万メートル:98%増)、EU(1億9,437万メートル:104%増)の順となっている。

合繊短繊維織物は、第1位が香港(3億1,931万メートル:6%減)で、以下韓国(1億7,233万メートル:5%増)、アラブ首長国(1億414万メートル:3%増)、ミャンマー(9,878万メートル:51%増)の順となっている。

ポリエステル長繊維織物の主要輸出先は、アラブ首長国(3億8,995万メートル:9%減)、EU(3億17万メートル:21%減)、イラン(2億5,210万メートル:3%減)、ブラジル(1億8,266万メートル:12%増)、香港(1億4,879万メートル:12%減)、パキスタン(1億3,008万メートル:50%増)、米国(1億1,727万メートル:32倍増)の順となっている。EUの減少は、この3月中旬のダンピング関税賦課の影響であるが、対照的に米国向けが激増しており、9月からその一部はセーフガード対象品目となっている。

2005 年 8 月の中国の繊維品輸出入状況

単位：1000 ドル

	輸 入				輸 出				
	2004 年実績		2005 年 1 月～ 8 月		2004 年実績		2005 年 1 月～ 8 月		
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	
繊維品合計									
原料(綿)合計									
スフ綿	TON	88,806,881	282,356	929,294	228,423	738,610	140	139	124
合繊綿	TON	13,687	24,285	10,635	18,916	217	206		
(ポリエステル)	TON	175,177	204,579	151,237	200,035	158	187		
(アクリル)	TON	144,515	143,411	126,196	135,902	166	192		
糸合計	TON	1,718	3,092	1,010	2,045	83	95		
人絹糸	TON	1,173,841	4,193,749	926,413	3,383,422	118	117		
スフ糸	TON	61,124	223,189	44,757	159,126	109	107		
合繊長繊維糸	TON	26,812	95,311	21,078	88,364	112	136		
(ナイロン)	TON	223,802	519,881	239,075	570,070	180	183		
(ポリエステル)	TON	55,360	166,602	50,006	173,019	146	173		
合繊短繊維糸	TON	136,985	207,686	163,415	283,569	209	246		
綿糸	TON	329,799	876,531	226,402	663,947	99	110		
雑糸	TON	432,231	1,336,555	321,648	957,906	111	103		
雑物合計	千LM	14,815,314	13,528,587	10,746,953	9,883,618	116	118		
絹織物	千LM	250,975	582,843	188,155	458,462	127	134		
人絹織物	千LM	50,604	41,434	24,219	21,409	68	74		
スフ織物	千LM	756,670	554,797	602,930	438,239	117	116		
合繊長繊維織物	千LM	5,643,938	4,377,607	4,010,575	3,114,987	112	113		
(ナイロン)	千LM	257,064	121,257	158,795	88,754	92	113		
(ポリエステル)	千LM	4,747,972	3,669,996	3,346,501	2,582,403	111	111		
合繊短繊維織物	千LM	2,962,742	1,797,116	2,208,555	1,482,409	118	130		
綿織物	千LM	4,801,301	5,251,183	3,491,680	3,739,993	120	118		
毛織物	千LM	95,644	504,203	70,075	375,876	115	116		
不織布	TON	107,682	236,426	103,610	228,583	153	155		
タイヤコード織物	TON	58,181	163,943	51,460	177,695	155	197		
コーテッド織物	TON	351,260	810,731	297,546	710,202	134	142		
ニット生地	TON	808,669	2,995,153	605,263	2,344,635	111	117		
ニット製衣料			25,804,518		19,390,091		120		
布帛製衣料			28,983,243		22,874,321		125		
その他			11,161,236		9,543,671		134		

出所：中国海関統計

【輸 入】

- 5%減と低調な推移が続く -

輸入は、昨年は、特に前半に、綿花の輸入が激増したこともあり、大きく伸びたが、今年はこの綿花の輸入が大きく減少に転じており、またその他原料、織物類等の輸入も国内の増産を背景に総じて低調で、全体では前年同期比 5%減の 152 億 522 万ドルに止まっている。

この結果、中国の 2005 年 1～8 月の繊維品貿易収支の黒字額は前年比 35%増の 540 億 6,963 万ドルとなり、中国の外貨獲得の最大の貢献産業となっている。このうち、主要国との繊維品貿易をみると、日本とは 81 億 2,248 万ドル、香港とは 80 億 1,066 万ドル、米国とは 95 億 3,294 万ドル、EU とは 113 億 228 万ドルの各々の黒字となり、この 4 カ国で中国繊維品貿易全体の黒字額の 68%を占めている。

< 品目別輸入状況 >

輸入の品目別内訳では、まず綿関係では、綿花の米国からの輸入が減少していることもあり、数量で 12%減の 272 万 8,662 トン、金額で 18%減の 42 億 8,422 万ドルと大幅に後退している。合繊綿の輸入も量的には低調で、数量で 15%減の 58 万 3,410 トン、但し、金額では 4%増の 9 億 5,591 万ドルとなった。

合繊綿の内訳は、アクリル綿が数量で横ばいの 31 万 5,700 トン、金額で 16%増の 5 億 9,757 万ドルと数量横ばいの金額増、一方ポリエステル綿は数量で 30%減の 25 万 402 トン、金額で 16%減の 3 億 424 万ドルと大きく減少している。因みに、前年前半特に急増した綿花の輸入は、数量で 15%減の 152 万 5,735 トン、金額で 37%減の 18 億 4,041 万ドルとなっている。

糸類の輸入は、数量で 7%減の 111 万 1,906 トン、金額で 1%増の 27 億 3,768 万ドルと数量減の金額微増となっている。品目別では、最大品目の綿糸の輸入は、数量で 8%増の 51 万 7,868 トン、金額で 8%増の 11 億 319 万ドルとなった。合繊長繊維糸は、数量で 20%減の 40 万 2,817 トン、金額で 2%減の 10 億 1,658 万ドルで、この内訳は、大宗のポリエステル糸は数量で 27%減の 19 万 2,607 トン、金額で 12%減の 3 億 4,540 万ドル、一方ナイロン糸は数量で 12%減の 16 万 1,464 トン、但し金額では 13%増の 4 億 2,157 万ドルとなっている。また、合繊短繊維糸は数量で 8%減の 11 万 5,090 トン、金額で 6%減の 2 億 8,758 万ドルとなった。

一方、織物類の輸入については、数量で 8%減の 29 億 9,903 万メートル、金額で 1%減の 39 億 4,701 万ドルとなっている。

品目別では、最大輸入品目の合繊長繊維織物は数量で 12%減の 13 億 1,810 万メートル、金額で 1%減の 13 億 5,980 万ドルとなった。内訳は、ポリエステル長繊維織物が、数量で 24%減の 5 億 7,053 万メートル、金額で 4%減の 6 億 7,633 万ドル、ナイロン織物は、数量で 16%減の 4 億 5,080 万メートル、金額で 2%減の 4 億 389 万ドルとなった。綿織物は数量で 1%減の 9 億 8,516 万メートル、金額で 2%増の 13 億 9,357 万ドル、また合繊短繊維織物は数量で 7%

減の 4 億 7,471 万メートル、金額で 7%減の 5 億 4,249 万ドルとなった。

その他品目では、ニット生地が数量で 1%減 (30 万 2,775 トン) 金額で 4%増 (12 億 4,506 万ドル) コーテッド織物が数量で 10%減 (17 万 5,066 トン) 金額で 6%増 (6 億 7,812 万ドル) と各々数量減の金額増となっている。

衣料品の輸入は、布帛製衣料品が横ばいの 4 億 8,803 万ドル、ニット製衣料品は 2%減の 4 億 847 万ドルとなった。

< 国別輸入状況 >

国別輸入では、日本 (25 億 372 万ドル : 1%減) 台湾 (22 億 3,448 万ドル : 6%減) 韓国 (19 億 7,668 万ドル : 3%増) 米国 (13 億 5,706 万ドル : 32%減) 香港 (11 億 5,054 万ドル : 8%減) EU (9 億 7,778 万ドル : 16%増) がベスト 6 で、加工用の原材料を中心に、これら 6 カ国からの輸入で全体の 67%を占めている。因みに、州別構成では、東アジアからの輸入が全体の 72% (横ばい) を占め、北米が 9% (32%減) 欧州が 7% (16%増) 大洋州が 6% (横ばい) となっている。

主要輸入品目別に国別輸入先を見ると、合繊綿の輸入は、金額ベースでは、日本 (2 億 4,983 万ドル : 22%増) 台湾 (2 億 488 万ドル : 20%減) 韓国 (1 億 9,742 万ドル : 2%減) EU (8,085 万ドル : 28%増) タイ (7,834 万ドル : 32%増) の順でこの 5 カ国で全体の 85%を占めている。また、数量ベースでは、台湾 (15 万 880 トン : 35%減)、韓国 (13 万 968 トン : 19%減) 日本 (11 万 8,651 トン : 5%増) タイ (5 万 5,563 トン : 6%増) EU (4 万 463 トン : 8%増) で、台湾、韓国は大幅に減少しているが、その他は増勢推移となっている。

一方、合繊長繊維系の輸入は、金額ベースで、台湾 (4 億 4,255 万ドル : 25%減) がトップで、続いて韓国 (1 億 9,508 万ドル : 8%減) 日本 (9,388 万ドル : 1%減) の順で、この 3 カ国で全体の 72%を占めており、何れも減少推移となった。また、数量ベースでも、台湾 (23 万 4,033 トン : 25%減)、韓国 (6 万 6,218 トン : 29%減) 日本 (1 万 4,283 トン : 2%減) と各々減少している。

織物類の輸入は上記 3 国と香港の 4 カ国からの輸入が圧倒的なシェアを占めている。

合繊長繊維織物については、1 位が台湾 (5 億 8,103 万メートル : 22%減) 続いて韓国 (3 億 657 万メートル : 15%増) 日本 (1 億 6,881 万メートル : 6%減) 香港 (9,165 万メートル : 25%減) の順で、この 4 カ国で全体の 87%を占めている。合繊短繊維織物の輸入も、台湾 (1 億 5,975 万メートル : 5%減) 韓国 (1 億 335 万メートル : 4%減) 日本 (6,856 万メートル : 5%減) 香港 (4,825 万メートル : 25%減) の順で、この 4 カ国で 80%を占めている。また、綿織物の輸入は、香港 (2 億 6,252 万メートル : 横ばい) 日本 (1 億 749 万メートル : 9%減) 台湾 (7,974 万メートル : 17%減)、パキスタン (7,757 万メートル : 13%増) 韓国 (6,035 万メートル : 12%増) の順となっている。



2005年1～6月の繊維品貿易・輸出は大幅増、 輸入は微増

< 輸出は21%増の41億2,598万ドルと大幅な増加推移 >

インドネシアの繊維産業は、枠撤廃による中国品等との競合激化、また国内的には、人件費の高騰など諸経費のコストアップもあり、競争力の低下が懸念されているが、2005年1～6月の繊維品輸出は、昨年第1四半期が特に不振だったこともあり、衣料品を中心に各地域向けに伸び、前年同期比21%増の41億6,541万ドルと好調に推移している。

地域別輸出をみると、シェア35%の北米は29%増、同26%の東アジアが25%増、同22%の欧州は5%増と、主要地域は揃って好調な推移となっている。

主要輸出国は、米国(13億9,411万ドル：29%増)、EU(7億9,109万ドル：1%増)、日本(2億4,191万ドル：10%増)、アラブ首長国(1億5,182万ドル：19%増)、韓国(1億1,067万ドル：30%増)、シンガポール(1億828万ドル：84%増)、香港(9,725万ドル：12%増)、マレーシア(9,443万ドル：10%増)、トルコ(9,394万ドル：53%増)、サウジアラビア(7,002万ドル：35%増)の順で、軒並み増加推移となっている。

品目別輸出を見ると、最大輸出品目は衣料品で、全繊維品輸出額の57%を占めているが、このうち、ニット製衣料品は36%増の8億5,089万ドル、太宗の布帛製衣料品は14%増の15億655万ドルで、特にニット製衣料品の伸びが目立っている。

ニット製衣料品市場のベスト5は、米国(3億8,522万ドル：59%増)、EU(2億5,050万ドル：10%増)、アラブ首長国(3,504万ドル：65%増)、シンガポール(3,070万ドル：84%増)、日本(1,979万ドル：20%増)の順で、特に米国、EU向けで全体の75%と圧倒的なシェアを占めている。

布帛製衣料品市場のベスト5は米国(9億713万ドル：22%増)、EU(2億9,543万ドル：6%減)、日本(4,493万ドル：18%増)、アラブ首長国(3,899万ドル：10%)、カナダ(3,425万ドル：25%増)で、ここでも米国、EU向けで80%と圧倒的なシェアを占めている。今年から枠が撤廃された欧米向けには、中国の躍進による影響が危惧されたが、今のところ米国向けには健闘している。

織物類の輸出も好調に推移しており、全体で18%増の6億606万ドルとなっている。昨年は大幅な減少となった合繊長繊維織物は7%増の2億2,554万ドルと増勢に転じている。合繊長繊維織物市場のベスト5は、アラブ首長国(4,423万ドル：3%増)、EU(2,862万ドル：11%増)、マレーシア(2,676万ドル：13%増)、サウジアラビア(2,381万ドル：72%増)、日本(1,104万ドル：42%増)の順となっている。

その他の織物では、綿織物が27%増の2億179万ドルと大幅に増加、また合繊短繊維織物も23%増の1億3,743万ドル好調な推移となっている。綿織物の主要市場はEU(3,970万ドル：

4%増)、香港(2,421万ドル：52%増)、バングラディシュ(1,561万ドル：49%増)、日本(1,459万ドル：5%減)の順となっている。また、合繊短繊維織物の主要市場は、EU(2,862万ドル：14%増)、日本(1,656万ドル：32%増)、アラブ首長国(1,381万ドル：83%増)、マレーシア(1,112万ドル：70%増)となっている。

原料関係の輸出も好調で、綿類は、スフ綿が大きく伸び、合繊綿もポリエステル綿を中心に健闘し、全体で45%増の1億1,326万ドルとなった。また、糸類の輸出も、綿糸は伸び悩んでいるが、合繊長繊維糸、合繊短繊維糸が特に大きく伸び、糸全体としては16%増の7億9,067万ドルとなった。

< 輸入は1%増の8億4,264万ドルと微増推移 >

輸入は、糸関係が大きく伸びているが、綿関係、織物関係は低調に推移し、全体として1%増の8億4,264万ドルと微増推移となっている。

地域別では、シェア54%を占める東アジアからの輸入は4%増の4億5,853万ドル、シェア21%の北米は12%増の1億7,441万ドルと増加推移となったが、シェア7%の大洋州は16%減の5,627万ドル、シェア6%のアフリカは39%減の5,259万ドル、同じくシェア6%の欧州は10%減の5,142万ドルと後退した。

国別の主要輸入先は、米国(1億6,889万ドル：10%増)、中国(1億460万ドル：28%増)、台湾(8,214万ドル：19%減)、韓国(6,229万ドル：21%減)、豪州(5,491万ドル：16%減)、日本(5,120万ドル：7%増)、EU(4,599万ドル：6%減)の順となっている。

品目別では、綿関係の輸入は、合繊綿が横ばい、綿花、羊毛等の天然原料が減少し、綿全体として6%減の4億3,855万ドルとなった。糸関係では、合繊長繊維糸、特にポリエステル長繊維糸また綿糸の輸入が増大し、全体で21%増の1億3,800万ドルとなった。

織物類の輸入は、綿織物、合繊長繊維織物が大きく減少し、全体で15%減の8,938万ドルとなった。

その他では、ニット生地の輸入は2%増の3,506万ドル、タイヤコード織物は79%増の3,050万ドルと増加している。

衣料品の輸入は、未だ額的には小さいが、ニット製衣料品が123%増の1,159万ドル、布帛製衣料品が296%増の1,388万ドルと主に中国からの輸入急増により、驚異的な伸びを記録している。

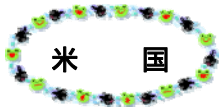
(注)織物の統計は、例えば同じ合繊長繊維織物に分類される織物でありながら、その統計番号により、単位がKGとSMに分かれており、統一された数量が抽出できないため、金額ベースのみの統計となっている。

2005年1～6月のインドネシアの繊維品輸出入状況

単位:1000ドル

	輸				入				
	2004年実績		2005年(1～6)		2004年実績		2005年(1～6)		前年比
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	
繊維品合計									
原料(綿)合計	TON	7,647,441	84,349	4,165,411	TON	1,718,546	842,637	101	
スフ綿	TON	152,413	197,805	37,581	113,260	TON	956,260	438,547	107
合繊綿	TON	63,272	97,467	25,722	59,223	TON	14,898	2,753	58
(ポリエステル)	TON	47,177	54,618	24,389	31,455	TON	238,129	65,821	84
(アクリル)	TON	42,581	48,564	2,61	29,298	TON	73,433	20,334	73
系合計	TON	388	476	281	574	TON	88,045	42,987	91
人絹糸	TON	720,625	1,480,158	382,478	790,670	TON	109,434	244,889	136
スフ糸	TON	1,866	5,780	1,020	3,393	TON	20,451	64,400	108
合繊長繊維糸	TON	53,510	125,757	29,259	68,969	TON	132	506	418
(ナイロン)	TON	284,239	468,285	156,974	282,269	TON	54,574	106,935	30,786
(ポリエステル)	TON	40,640	101,624	17,833	56,811	TON	9,358	26,332	4,855
合繊短繊維糸	TON	239,290	350,721	137,043	217,060	TON	38,950	50,816	22,627
綿糸	TON	247,826	523,237	133,473	283,636	TON	8,208	16,781	1,770
織物合計	TON	129,567	348,274	60,992	149,359	TON	21,980	50,570	22,335
絹織物	TON	0	1,142,426	0	606,057	TON	0	211,658	0
人絹織物	TON	1,361	8,503	1,317	7,092	TON	13	136	16
スフ織物			32,618	17,080				5,527	201
合繊長繊維織物			24,528	13,290				3,393	2,263
(ナイロン)			468,358	225,544				67,386	866
(ポリエステル)			3,081	1,209				6,575	25,692
合繊短繊維織物			140,434	61,193				43,569	2,273
綿織物			237,205	137,433				24,785	17,159
毛織物	TON	81	625	422	201,789	TON	83	102,505	48,168
不織布	TON	10,172	21,955	5,975	13,576	TON	10,350	29,586	984
タイヤコード織物	TON	19,578	66,653	11,642	47,165	TON	11,086	36,931	16,438
コーティング織物	TON	5,289	20,031	2,178	10,519	TON	11,775	39,807	30,501
ニット生地	TON	15,607	100,405	7,463	41,593	TON	11,608	72,397	10,186
ニット製衣料			1,475,628	850,888				17,015	35,055
布帛製衣料			2,814,054	1,506,548				11,594	11,594
その他			328,326	185,137				13,882	13,882
								59,058	59,058

出所:インドネシア通関統計



米中繊維協定交渉、合意に達する

本年 11 月 8 日、米国のポートマン通商代表部(USTR)代表と中国商務部の薄熙来部長は、ロンドンで「繊維品・衣料品貿易に関する合意覚書」に調印した。これにより、繊維品を巡る米中貿易摩擦は一応の解決をみた。

調印された覚書の概要は次のとおり。

- 1．規制枠の実施期間：2006 年 1 月 1 日から 2008 年末までの 3 年間。
- 2．規制対象品目及び枠水準：次表のとおり（34 カテゴリー、21 品目）。
覚書には規制枠の基礎レベルが発表されていないため、2006 年の伸び率は、今のところ不明であるが(各種報道では 10%～15%増)、2007 年は 12.5%～16%増、2008 年は 15%～17%増となっている。
また、対象品目では、現在セーフガードが検討されている品目のうち、6 カテゴリー品目 (Ca.226：チーズクロス、パチスト、ローン、ボイル、Ca.341/641：婦人用綿・化合繊維製布帛シャツ・ブラウス、Ca.342/642：綿・化合繊維製スカート、Ca.350/650：綿・化合繊維製ドレス・ジャケット、Ca.351/651：綿・化合繊維製寝着、Ca.634/635：化合繊維製コート・ジャケット)が対象外となったのが注目される。
- 3．米国は、対象商品以外のセーフガードの適用を抑制する。
- 4．フレキシビリティの条項により、2007 年、2008 年には各カテゴリーの未達枠の繰り入れ（キャリアオーバー）を枠の 2%まで、2006 年、2007 年は次年度枠からの繰り入れ（キャリアフォワード）を枠の 3%まで認められる。またこの併用は枠の 3%まで。但しカテゴリー間のトランスファーは認められない。
- 5．この規制を管理するため、米中は電子ビザ制度（ELVIS）を再導入する。
- 6．署名後、米国は靴下類を除き、2005 年にセーフガードが発動された品目で、満枠によって通関を拒否されている品目の通関を認める。

米中規制対象品目及び規制枠

	カテゴリー	商品名	単位	2006年 規制数量	2007年 規制数量	2008 規制数量
1	200/301	綿/化合繊製縫い糸；コームした綿糸（小売用）	KG	7,529,582	8,659,019	10,131,052
2	222	綿/化合繊製ニット織物	KG	15,966,487	18,361,460	21,482,908
3	332/432/632PTT	綿/毛/化合繊製靴下及び乳幼児用靴下	ダース ペア	68,645,472	74,282,927	80,480,741
4	332/432/632PTB	綿/毛/化合繊製靴下及び乳幼児用靴下（上記の内枠）	ダース ペア	65,405,092	70,637,499	76,288,499
5	338/339PT	綿製男子用ニットシャツ及び女子用ニットシャツ・ブラウス	ダース	20,822,111	23,424,875	26,938,606
6	340/640	綿/化合繊製布帛男子・男児シャツ	ダース	6,743,644	7,586,600	8,724,590
7	345/645/646	綿/化合繊製男女セーター	ダース	8,179,211	9,201,612	10,673,870
8	347/348	綿製男子・女子用ズボン	ダース	19,666,049	22,124,305	25,442,951
9	349/649	綿/化合繊製ブラジャー	ダース	22,785,906	25,634,144	29,479,266
10	352/652	綿/化合繊製下着	ダース	18,948,937	21,317,554	24,515,187
11	359S/659S	綿/化合繊製水着	KG	4,590,626	5,164,454	5,990,767
12	363	綿製テリー及び他のパイルタオル	枚	103,316,873	116,231,482	134,828,519
13	443	毛製男子・男児用スーツ	着	1,346,082	1,514,342	1,756,637
14	447	毛製男子・男児用ズボン	ダース	215,004	241,880	280,581
15	619	ポリエステル長繊維織物（ $\leq 170 \text{ g/m}^2$ ）	m ²	55,308,506	62,222,069	72,177,600
16	620	その他合繊長繊維織物	m ²	80,197,248	90,221,904	103,755,190
17	622	ガラスファイバー織物	m ²	32,265,013	37,104,765	43,412,575
18	638/639PT	化合繊綿製男子用ニットシャツ及び女子用ニットシャツ・ブラウス	ダース	8,060,063	9,067,571	10,427,707
19	647/648PT	化合繊製ズボン	ダース	7,960,355	8,955,399	10,298,709
20	666PT	化合繊製窓用ブラインド及びシャイド	KG	964,014	1,084,516	1,268,884
21	847	絹混紡・交織及び麻等のズボン	ダース	17,647,255	19,853,162	23,029,668

注：

- * カテゴリー632PT は、HS 6115.20.90.10、6115.93.60.20、6115.93.90.20、6115.99.14.20 及び 6115.99.180.20、但し、下段のうち枠は 6115.20.90.10 を除外
- * 乳幼児靴下は、HS 6111.20.60.50、6111.30.50.50 及び 6111.90.50.50(従来はいずれも カテゴリー239 類に分類される)
- * カテゴリー666PT は、ex6303.12.00.00 と ex6303.92.20.20
- * カテゴリー338/339 に該当する 6110.20.10.25、6110.20.10.30、6110.20.20.65、6110.20.20.75、6110.90.90.68、6110.90.90.70 の一部は適用除外

- * カテゴリー638/639に該当する6110.30.20.50、6110.30.20.60、6110.30.30.50、6110.30.30.55、6110.90.90.76、6110.90.90.78の一部は適用除外
- * カテゴリー647/648に該当する、6203.43.35.10、6204.63.30.10、210.40.50.31、6210.50.50.31、6211.20.15.25と6211.20.15.55は適用除外

上記の合意について、中国側は、「合意が成立し、今後は安定した貿易環境のもとで双方の共同利益が追求できる」(中国紡織品進出口商会)と歓迎の談話を発表しており、米国繊維産業界も、米国繊維製造業者通商行動連盟(AMTAC)を始め、全米繊維協会(NTA)等、一様に政府の努力を評価すると発表している。一方、輸入業者団体は、輸入の安定性はある程度確保できるが、対象品目が予想以上に多くなったこと、また米国の家庭にとって最重要品目であるシャツ、ズボン、下着等の枠が厳しく設定されたことで、輸入業者の要求が満たされていない(全米繊維品輸入業者協会：USA - ITA)と不満の意を表明している。

米国の対中繊維セーフガード関連品目及び動向（枠消化率は2005年11月9日現在）

1. 対中繊維セーフガード発動品目

カテゴリNo.	品目名	発動日	最終期限	消化率	備考
338/339	紳士・婦人用綿製シャツ、ブラウス(ニット)	2005.5.23	2005.12.31	100.0%	エンバボーゴー(7月5日)
347/348	紳士・婦人用綿製ズボン	2005.5.23	2005.12.31	100.0%	エンバボーゴー(7月8日)
352/652	綿・化学繊維下着	2005.5.23	2005.12.31	100.0%	エンバボーゴー(7月5日)
340/640	紳士用綿・化学繊維シャツ(布帛)	2005.5.27	2005.12.31	99.8%	
647/648	紳士・婦人用化学繊維製ズボン	2005.5.27	2005.12.31	100.0%	エンバボーゴー(8月3日)
638/639	紳士・婦人用化学繊維製シャツ・ブラウス	2005.5.27	2005.12.31	100.0%	エンバボーゴー(7月12日)
301	綿糸(コート)	2005.5.27	2005.12.31	41.2%	
332/432/632pt.	靴下類	2005.11.4	2005.12.31	0.0%	新規発動
349/649	綿・化学繊維製ブラジャー	2005.8.31	2005.12.31	42.7%	新規発動
620	その他繊維(長)織物	2005.8.31	2005.12.31	91.1%	新規発動

2. 対中繊維セーフガード申請が受理され現在その是非を審議中の品目

カテゴリNo.	品 目 名	受理日	備 考
350/650	綿・化繊製ドレッシングガウン	2005.4.6	最終決定11月30日まで再延期
222	ニット生地	2004.12.13	最終決定11月30日まで再延期
447	毛製ズボン	2004.12.6	最終決定11月30日まで再延期
345/645/646	紳士・婦人用綿・化繊製セーター	2005.4.6	最終決定11月30日まで再延期
369pt/666pt	綿・化繊製カーテン、ドレパリー	2005.7.14	最終決定11月30日まで再延期
341/641	婦人用綿・化繊製ブラウス、シャツ	2005.8.1	最終決定11月8日まで再延期
342/642	綿・化繊製スカート	2005.8.1	最終決定11月8日まで再延期
351/651	綿・化繊製寝衣	2005.8.1	最終決定11月8日まで再延期
359s/659s	綿・化繊製水着	2005.8.1	最終決定11月8日まで再延期
332/432/632pt.	靴下類	2005.8.1	最終決定12月31日まで再延期
338/339	紳士・婦人用綿製シャツ、ブラウス(ニット)	2005.10.5	既に現在セーフガード発動中で再申請
347/348	紳士・婦人用綿製ズボン	2005.10.5	既に現在セーフガード発動中で再申請
352/652	綿・化繊製下着	2005.10.5	既に現在セーフガード発動中で再申請
340/640	紳士用綿・化繊製シャツ(布帛)	2005.10.5	既に現在セーフガード発動中で再申請
647/648	紳士・婦人用化繊製ズボン	2005.10.5	既に現在セーフガード発動中で再申請
638/639	紳士・婦人用化繊製シャツ・ブラウス	2005.10.5	既に現在セーフガード発動中で再申請
301	綿系(コート)	2005.10.5	既に現在セーフガード発動中で再申請
349/649	綿・化繊製ブラジャー	2005.10.5	既に現在セーフガード発動中で再申請
620	その他合繊(長)織物	2005.10.5	既に現在セーフガード発動中で再申請
443	紳士用毛製スーツ	2005.10.5	新規申請
634/635	化繊コート	2005.10.5	新規申請
226	チーズクロス	2005.10.5	新規申請
619	ポリエステル長繊維薄地織物	2005.10.5	新規申請
363	綿製テリー、パイラトル	2005.11.1	新規申請

(注) 1.再申請品目は、当該セーフガードの期限が本年末となっているので、その延長を求めたもの

2.CITAは申請日から15日以内に内容を検討し、申請を受理するかどうか決定し、受理されれば30日間のパブリックコメントの期間をにおいて、その後60日以内にセーフガード発動の可否の最終決定を行う

2005年8月の米繊維品輸入・3カ月ぶりの二桁増

2005年8月の米繊維品輸入は前年同月比10.4%増の47億5,200万SME(平方メートル換算)と、本年5月(14.2%増)以来3カ月ぶりの二桁増となった。

このうち、アパレルの輸入は13.3%増と引続き大幅増を続け、13カ月連続の増加を記録した。また、ノン・アパレル(糸、織物、その他繊維製品)の輸入は8.2%増と、本年5月(8.3%増)以来の大幅増となった。

地域別では、供給国第1位の中国からの輸入は17億100万SMEで47.0%増となり、引き続き大幅な増加を記録した。

2005年1～8月の米繊維品輸入は337億1,300万SMEで前年同期比8.3%増となった。このうち、ノン・アパレルは5.2%増、アパレルは12.7%増となった。米繊維品輸入の増加は、アパレルの大幅増によるところが大きい。

米国の繊維品輸入推移

単位：100万SME、%

	ノン・アパレル		アパレル		合計	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
2000年	16,829	16.0	16,035	13.7	32,864	14.9
2001年	16,704	▲0.7	16,104	0.4	32,810	▲0.2
2002年	21,028	25.9	17,256	7.2	38,285	16.7
2003年	23,362	11.1	18,864	9.3	42,226	10.3
2004年	26,976	15.5	19,652	4.2	46,628	10.4
2005年	19,110	5.2	14,603	12.7	33,713	8.3
1月	2,247	5.0	1,646	8.5	3,892	6.4
2月	2,208	17.3	1,759	22.2	3,968	19.4
3月	2,340	4.9	1,728	7.0	4,069	5.8
4月	2,339	1.5	1,550	11.7	3,888	4.4
5月	2,544	8.3	1,704	24.2	4,248	14.2
6月	2,488	▲1.4	2,065	19.5	4,552	7.1
7月	2,352	0.1	1,991	7.3	4,344	3.3
8月	2,592	8.2	2,160	13.3	4,752	10.4

注：前年比は増減、▲は減少を示す(以下の表同じ)。出所：米商務省(DOC)

1～8月の地域別輸入状況は、以下の通り。

- アジア地域では、いわゆるビッグ4からの輸入が28.1%増と大きく伸びている。特に、中国は46.1%の大幅増となり、そのシェアは前年同期の24%から33%に拡大し、米繊維品輸入市場を席卷している。

他方、他のビッグ4構成国の韓国、台湾、香港は、中国の大躍進の煽りを受けて、いずれも15%以上の大幅な減少となっている。

米国の繊維品輸入推移（主要地域・国別）

単位：100万SME、%

	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年 1～8月	前年 同期比
全世界	32,864	32,812	38,288	42,225	46,628	33,713	8.3
NAFTA	7,951	7,558	7,722	7,238	7,351	4,675	▲6.2
メキシコ	4,747	4,290	4,335	3,926	4,087	2,636	▲5.4
カナダ	3,204	3,268	3,387	3,312	3,264	2,039	▲7.6
CBI	3,788	3,704	3,830	4,046	3,919	2,790	2.5
ホンジュラス	1,046	1,032	1,099	1,165	1,108	835	5.3
エルサルバドル	757	768	817	895	824	600	2.7
ドミニカ共和国	859	773	743	758	746	494	▲0.5
ビッグ4	5,886	5,911	9,348	12,632	16,126	13,531	28.1
中国	2,218	2,211	4,963	8,287	11,664	11,130	46.1
韓国	1,312	1,383	2,032	2,097	2,301	1,283	▲15.6
台湾	1,233	1,224	1,391	1,356	1,299	704	▲19.3
香港	1,123	1,092	962	892	862	413	▲24.9
アシェアン	4,228	4,390	4,766	4,980	5,135	3,304	▲3.3
タイ	1,317	1,308	1,316	1,098	1,111	691	▲5.7
インドネシア	1,053	1,165	1,215	1,151	1,274	885	1.3
フィリピン	929	916	817	794	711	416	▲12.6
ベトナム	35	33	358	827	905	608	2.6
カンボジア	265	389	474	561	673	449	5.7
EU（15カ国）	1,863	1,868	2,055	2,058	2,059	1,333	▲6.0
イタリア	562	521	518	533	462	282	▲11.7
ドイツ	359	457	551	484	476	307	▲5.6
その他	9,148	9,381	10,567	11,272	12,038	8,080	4.4
パキスタン	1,997	2,189	2,537	2,690	2,966	2,155	7.2
インド	1,248	1,250	1,545	1,666	1,914	1,568	21.0
バングラディシュ	1,131	1,169	1,150	1,110	1,103	874	19.8
トルコ	867	871	1,068	1,026	981	586	▲11.1

また、アシェアンからの輸入は、ベトナムとカンボジアの新興市場は堅調に伸びているものの、タイ、フィリピン、インドネシアの伝統市場は停滞し、全体として3.3%の減少となっている。

米近隣地域では、カリブ海諸国（CBI）からの輸入は2.5%増と堅調であるが、NAFTA（北米自由貿易協定）パートナーのメキシコとカナダからの輸入はそれぞれ5.4%、7.6%の減少となり、両国合わせて6.2%減と不調である。

このため、メキシコは中国に次いで供給国第2位の地位を保持しているものの、カナダは1～7月実績でパキスタンに追い抜かれて供給国第3位から第4位に転落したが、1～8月実績でも巻き返しはならず、第4位にとどまっている。

EU(15カ国)からの輸入は、主力のイタリーとドイツからの織物の不振が影響して、6.0%減となっている。

上記の主要地域に含まれない「その他地域」では、パキスタンが7.2%増と順調に推移し、上述の通り、供給国第3位の地位を保持している。

また、インドが21.0%増、バングラディッシュが19.8%増といずれも大幅な増加となっており、東アジア諸国からの輸入が活況を呈している。

2005年9月の米大手小売店販売、引続き堅調

- 71社で4.0%増 -

米国の国際ショッピング・センター協会(ICSC)が纏めた「米チエーン・ストア販売動向レポート」によると、米大手小売店(71社)の2005年9月の売上高は前年同月比(既存店比、以下同じ)4.0%増となった。これは、前月と前々月の伸び率(3.6%)を上回っており、米小売販売は引続き堅調に推移している。

9月の小売販売は、ハリケーン・カトリーヌの被害、ガソリン価格の高騰、暑過ぎる気候の影響を受け、秋物衣料が苦戦したが、ガソリンを販売するホールセール・クラブ(10.0%増)、高級小売店(5.3%増)、ティーン用アパレル専門店(9.7%増)の好調な販売で、全体として堅調に伸びを示した。

今後の小売販売見通しについて、アナリストは、「9月の販売は堅調に伸びたが、消費者は今後の燃料の支出増を警戒しており、燃料以外の支出を下げようとしているので、10月の小売販売は3%程度に減速する」と予想している。

ストア・タイプ別販売状況は、以下の通り。

大手百貨店の9月の販売は、高級百貨店は順調に推移したが、中級百貨店は苦戦しており、明暗が分かれている。

高級百貨店は、引続く富裕層の旺盛な購買に支えられて順調に推移し、ニーマン・マーカスが9.6%増と大幅な増加となり、ノードストロム(4.1%増)とサクス(2.0%増)も堅調に伸びた。

一方、中級百貨店は停滞しており、ディラードは1.0%減、コールズは0.2%減と落ち込み、また9月にメイを合併して百貨店トップに躍進したフェデレーテッドは1.3%増、J.C.ペニーは1.4%増と共に若干増にとどまった。このうち、フェデレーテッドは「ハリケーンによる店舗休業や消費低迷、ホームストアの苦戦で、若干増にとどまった」と説明している。

米大手小売店の売上高の伸び率推移

単位：%

	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年
1月	8.2	5.7	4.8	5.2	1.8	5.9	3.6
2月	7.6	6.0	3.1	6.2	0.9	6.8	4.9
3月	9.9	2.1	1.7	6.4	-0.2	6.8	4.1
4月	4.2	7.9	3.8	1.6	3.1	3.7	2.2
5月	6.8	5.0	1.5	3.4	2.0	5.4	2.9
6月	7.4	3.7	2.8	5.1	2.4	2.6	5.2
7月	6.9	4.4	3.4	2.6	4.2	3.8	3.6
8月	6.7	4.2	3.6	1.6	4.9	1.3	3.6
9月	6.7	4.3	0.9	1.5	5.8	2.4	4.0
10月	5.7	3.8	2.3	3.1	2.4	4.1	
11月	4.1	4.0	2.1	0.0	3.3	1.7	
12月	6.7	0.7	2.2	1.0	3.9	2.7	
年間平均	6.7	4.0	2.6	3.1	2.9	3.9	

注：伸び率は前年同月比（既存店比）の増減を示す。（以下の表、同じ）

大手衣料品専門店チェーンの9月の販売は、企業間格差が出て、全体としては斑模様であった。

若者向け衣料品専門店チェーンのうち、特にティーンズ向け主体のアバクロンビー&フィッチとアメリカン・イーグルはそれぞれ21.0%増、13.0%増と大幅な増加となり、パシフィック・サンウエアも5.3%増と順調に推移した。

しかし、2大衣料品専門店チェーンのギャップとリミテッド・ブランドは、秋物が苦戦し、各々6.0%、2.0%の減少となった。

また、キャリアウーマン向け主体の衣料品専門店チェーンでは、アン・テラー・ストアは2.7%減、タルボットは5.1%減と何れも落ち込んだ。このうち、アン・テラー・ストアは「アウターウエア、ウール製品、ブーツなどの季節商品が異常な暑さで苦戦した」と述べている。

但し、メンズ・ウエア専門店のメンズ・ウエアハウスは5.3%増、プラスサイズの婦人用衣料品専門店のチャーミング・ショpps 3.0%増と、何れも安定した売上げを示した。

大手ディスカウント・ストアの9月の販売は堅調であり、ターゲットが5.6%増、ウォル・マートが3.8%増となった。

米国のみならず世界でも最大の小売企業であるウォル・マートは、「ハリケーンの影響で、ベーシック・アパレル、クリーニング用品、缶詰食品、水などが良く売れた」と語っている。

米主要小売店の 2005 年 9 月の販売状況

単位：100 万ドル、%

小 売 店 名	売 上 高	
		前年同月比
<百 貨 店>		
ディラード	670	- 1.0
フェデレーテッド	2,580	1.3
J.C.ペニー	1,251	1.4
コールズ	992	- 0.2
ニーマン・マーカス	397	9.6
ノードストロム	636	4.1
サクス	250	2.0
<衣料品専門店チエーン>		
アバクロンビー & フィッチ	228	21.0
アメリカン・イーグル	183	13.0
アン・テラー・ストア	203	- 2.7
エアロポステール	104	- 4.2
チャーミング・ショップズ	250	3.0
ギャップ	1,410	- 6.0
リミテッド・ブランド	687	- 2.0
メンズ・ウエアハウス	134	5.2
パシフィック・サンウエア	113	5.3
タルボット	185	- 5.1
<ディスカウント・ストア>		
ターゲット	4,306	5.6
ウォル・マート	28,242	3.8

木製梱包材規制、米国 4 州政府が農務省を提訴

日本荷主協会が入手した情報によると、米国農務省(USDA)が植物防疫国際基準 ISPM No.15 による木製梱包材輸入規制の段階的導入を決めたことに対し、ニューヨーク、カリフォルニア、イリノイ、コネティカットの 4 州政府は、ニューヨーク南部の地裁に訴訟を起こした。4 州は ISPM No.15 の規則内容が不十分であるため、環境負荷を下げる内容に変更する必要があるとしている。

問題になっているのは国際基準で定められた消毒方法。熱処理は害虫の広がりを阻止するのに十分でなく、臭化メチルくん蒸については、臭化メチルがオゾン層を破壊するため世界的に使用が禁止されていると指摘した。

4 州は「環境被害が少なく、もっと効果的な方法を考慮すべき」とし、プラスチックや合板のパレットなどの使用を例に挙げ、規則の見直しを要求している。各州の環境団体からの働きかけを受けたもので、全米に広がるとは考えにくいだが、規制内容の厳格化への動きとして注目されている。

組合関係の会議と催事

【2005年10月】

輸出入

- ・第1回合同企画委員会（書面審議）を執行。
- ・第1回合同理事会（書面審議）を執行。

輸出

- ・繊維団体新年名刺交換会打合せ会を大阪で開催。
- ・（独）日本貿易保険担当者との貿易保険システムに関する打合せ会を大阪で開催。

輸入

- ・日本黄麻製品輸入協議会、中国アジア専門委員会がそれぞれ調査ミッションを派遣。
- ・「アパレル生産の実際知識研修会」（関西地区）を大阪で開催。

2日（日）～4日（火）

輸入（タイ）輸入組合タスクフォース主要メンバーは織産連メンバーと共に訪タイし、バンコクにてタイ繊維産業関係者と意見交換を行った。

6日（木）～8日（土）

輸入（タイ）日本黄麻製品輸入協議会ミッション（塩田団長）がバンコクで開催の「エコプロダクツ国際展 2005」視察のため訪タイした。

7日（金）

輸入（東京）織産連と共に輸入組合タスクフォースにて訪タイの結果報告と検討が行われた。

輸入（大阪）第10回開催地区OB会を開催。

11日（火）

輸出入 「東京発 日本ファッション・ウィーク」協賛金拠出に関する第1回合同企画委員会（書面審議）を執行。

輸出（大阪）繊維団体新年名刺交換会打合せ会を輸出組合会議室で開催し、平成18年の名刺交換会の運営について検討した。

13日（木）

輸入（京都）「第12回絹委員会」（川村委員長）が開催され、京都丸紅㈱・多田取締役を講師に「呉服業界の現状と今後」と題する講演があった後、シルク製品の内外動向中国市場調査小組派遣報告、について説明があった。

輸入（東京）アパレル委員会在京正副委員長会を開催。

14日（金）～15日（土）

輸入（大阪）大阪のペガサスミシン製造㈱において輸入組合主催の「アパレル生産の実際知識研修会」（関西地区）が開催され、文化服装学院・正田生産管理研究室教授を講師に実地講演が行われた。

14日(金)

輸入(小松) 第22回綿委員会が開催され最近の綿糸、綿織物、綿製二次製品の輸入状況について意見交換が行われた。

18日(火)

輸出入 「東京発 日本ファッション・ウィーク」協賛金拠出に関する第1回合同理事会(書面審議)を執行。

輸入(東京) バングラディッシュ大使館商務参事官が来所し事務局と懇談した。

20日(木)

輸出(大阪) 平成18年の繊維団体新年名刺交換会の運営に関する帝国ホテル担当者との打合せ会を輸出組合会議室で開催した。

21日(金)

輸出(大阪) 独立行政法人日本貿易保険担当者との貿易保険システムに関する打合せ会を輸出組合会議室で開催した。

23日(日)~29日(土)

輸入(中国) 中国アジア専門委員会「中国西部地区視察調査ミッション」(細田団長)が成都、西安、上海に派遣された。

11月のスケジュール(11月14日現在)

1日(火)	輸出	(大阪)	平成17年度第3回「組合運営に関するタスクフォース」
	輸入	(東京)	日本橋税務署による税務調査
2日(水)	輸入	(東京)	第102回欧州・北米専門委員会
10日(木)	輸出	(大阪)	平成17年度第1回包括保険委員会(書面審議)
11日(金)	輸入	(大阪)	第14回貿易実務研修会(関西地区)
11日(金)	輸入	(東京)	高橋公認会計士の会計監査(2005年度上期分)
16日(水)	輸入	(東京)	組合運営に関するタスクフォース(第2回)
17日(木)	輸入	(名古屋)	第14回貿易実務研修会(名古屋地区)
22日(火)	輸入	(大阪)	第14回貿易実務研修会(関東地区)
24日(木)	輸入	(東京)	第138回企画委員会 OB会(関東地区)
25日(金)	輸入	(東京)	第9回関税評価対策グループ
27日(日) ~12月4日(日)	輸出	(ブラジル)	ブラジル繊維市場調査

輸入

組合業務報告

- 日本黄麻製品輸入協議会「エコプロダクツ国際展 2005」視察ミッション概要 -
日本繊維輸入組合

日本黄麻製品輸入協議会（JJPIC）は 2005 年 10 月 6 日～9 日にタイ・バンコクで開催された「エコプロダクツ国際展 2005」の視察のためにミッションを派遣した。同展はより環境にやさしい原材料を使用したエコプロダクツとして、黄麻製品が多数展示される大型展示会でもあり、同協議会で視察を行ったもの。概要は以下のとおり。

日本黄麻製品輸入協議会「エコプロダクツ国際展 2005」視察ミッション

1. 実施時期 : 2005 年 10 月 6 日（木）～ 10 月 8 日（土）
2. 派遣先 : タイ・バンコク
3. 団員構成 : JJPIC 会員会社、以下団員名簿参照
4. 内 容 :

今回、バンコクで開催された「エコプロダクツ国際展 2005」は、環境に配慮した製品及びサービスの購入、すなわち「グリーン購入」への世界的な意識の高まりを背景に、東南アジアでは昨年のマレーシアに続いて開催され、消費者、流通業者へのエコプロダクツへの関心を喚起するもの。今回の展示会は特に黄麻製品も多く展示され、出展者及び来場者との広範な商談の場となるもので、日本黄麻製品輸入協議会ではミッションを派遣して視察、商談を行った。

団員名簿

氏名	会社名	役職
団長 塩田政晴	丸紅インテックス(株)	産業資材部 麻・化成品課長
坂元貞昭	日本製麻(株)	産業資材事業部 部長代理
寺井竹夫	小泉製麻(株)	営業開発部部長
安藤張孝	(株)テザック	産業資材グループマネージャー
柴田修孝	日本繊維輸入組合	常務理事

日程表

月/日(曜)	訪問国	摘要
10/6 (木)	出 国	関空 バンコク
10/7 (金)	バンコク	終日「エコプロダクツ国際展 2005」を視察
10/8 (土)	帰 国	バンコク 関空

組合業務報告

- 中国アジア専門委員会「中国西部地区調査視察ミッション」概要 -

日本繊維輸入組合

輸入組合/中国アジア専門委員会では、拡大する中国西部地区の繊維製品卸小売市場の現地実態調査、及び現地繊維産業基盤の視察を目的に中国の成都・西安へミッションを派遣した。成都では四川省政府及び服装協会の主要会員等の同省官民の代表との懇談会を開催した。また、成都、西安の代表的な繊維企業を視察し工場見学と意見交換を行った。概要は以下のとおり。尚、ミッションは上海にて「インターテキスタイル上海展」を視察した。

中国アジア専門委員会「中国西部地区調査視察ミッション」

1. 実施時期 : 2005年10月23日(日) ~ 10月29日(土)
2. 派遣先 : 中国 成都・西安・上海
3. 団員構成 : 以下団員名簿参照
4. 内 容 :

輸入組合/中国アジア専門委員会では中国西部地区へミッションを派遣し、拡大する現地繊維製品卸小売市場の現状調査と併せて現地の繊維産業基盤について視察を行った。四川省成都市では四川省服装行業協会の仲介で四川省政府及び四川省繊維業界の官民代表と懇談会を開催し、半日に亘る意見交換が行われた。また、四川省の代表的な繊維卸小売市場と繊維企業の視察と意見交換を行った。また、陝西省西安市では陝西省紡織協会と陝西省服装行業協会の手配にて、同じく繊維製品卸小売市場と繊維企業を視察して意見交換を行った。

尚、ミッションは帰途、上海市において「2005年インターテキスタイル上海展」を視察した。

	会 社 名	氏 名	所在地	役 職 名
団 長	伊 藤 忠 商 事 (株)	細 田 薫	大阪	繊維カンパニーテキスタイル・製品部門部門長補佐
団 員	三 井 物 産 (株)	榎本誠一郎	大阪	関西ライフスタイル部アパレル室室長
"	八 木 通 商 (株)	西 川 東 輝	大阪	輸入衣料第二部 副部長
"	兼 松 (株)	西 野 幸 信	大阪	大阪アパレル部部长
"	興 和 (株)	松 村 国 蔵	大阪	繊維事業部テキスタイル部第一課長
"	丸 紅 (株)	寺 坂 義 弘	上海	上海百紅商業貿易有限公司 総経理助理
"	三 菱 商 事 (株)	北 野 均	大阪	関西支社アパレル部長代行
"	住 金 物 産 (株)	萩 原 基 生	東京	繊維カンパニーSCM推進部物流グループ長
"	田 村 駒 (株)	市 川 政 彦	大阪	常務取締役
"	(株) ト ー メ ン	井 谷 茂	東京	(株)トーメン・ホットライン 常務取締役 東京営業部長
"	(株) ヤ ギ	有 馬 浩 久	大阪	営業第二本部第三事業事業部長
"	日中経済貿易センター 上海事務所	池 田 稔	上海	上海事務所 副所長
事務局	日 本 繊 維 輸 入 組 合	柴 田 修 孝	大阪	常務理事
"	"	江 花 徹	大阪	業務部 参事

以上 14 名

中国西部地区視察調査ミッション日程票

1	2005年 10月23日 (日)	関空 上海 上海 成都	10:35 11:55 14:20 16:50	JL793 FM9543	成都 泊
2	10月24日 (月)		9:30 12:00 13:45 14:30 15:50	<ul style="list-style-type: none"> ・四川省繊維業界との懇談会 (中方:四川省服装行業協會、四川省經貿委、四川省商務庁、服装生産企業、小売業界、素材メーカー等) ・同昼食会 ・成都九龍広場置業發展有限公司(卸、小売百貨店) ・成都巨人樹制衣有限公司(制服) ・成都西部服装工業園(開發区) 	成都 泊
3	10月25日 (火)	成都 西安	9:30 14:20 15:15	<ul style="list-style-type: none"> ・成都伊藤洋華堂有限公司 ・成都伊藤洋華堂2号店/双楠店 CA4201	西安 泊
4	10月26日 (水)		10:00 13:30 15:00	<ul style="list-style-type: none"> ・陝西省紡織協會訪問懇談 ・中国系百貨店訪問 ・市内小売市場視察 	西安 泊
5	10月27日 (木)	西安 上海	8:00 9:30 11:30 13:30 16:50 18:40	陝西省紡織協會/王秘書長ホテルにて合流 <ul style="list-style-type: none"> ・西安精誠職業服装有限公司(西安高科開發区内) ・五環集團紡織股分公司(紡織城内/素材) ・陝西百和職業服装有限公司(制服) ・高級服装批發市場視察(市場) MU2157	上海 泊
6	10月28日 (金)		午前	「インターテキスタイル上海」視察	上海 泊
7	10月29日 (土)	上海 関空	13:40 16:45	JL794	

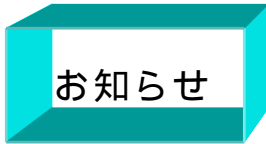
組合業務報告

- 「アパレル生産の実際知識研修会」(関西地区)の開催概要 -

輸入組合は昨年に引続き、本年は10月14日(金)～15日(土)に大阪のペガサスミシン製造(株)において、文化服装学院・正田生産管理研究室教授を講師に迎えて、「アパレル生産の実際知識研修会」を開催した。概要は以下のとおり。

「アパレル生産の実際知識研修会」(関西地区)

1. 主催： 日本繊維輸入組合
2. 日時： 2005年10月14日(金)、大阪市福島区ペガサスミシン製造(株)
2005年10月15日(土)、同上
3. 主旨： 商社にとってアパレル製品のOEM生産等「生産機能」の重要性が高まる中、実際に縫製関連機器・商品サンプルに触れながら、仕様、品質、価格の違いとその要因、衣類生産に関する知識等を深めるために、組合員向け人材育成事業としてアパレル生産に関する専門家を講師に招聘し研修を開催します。
4. 講師： 文化服装大学 生産管理研究室 教授 正田 康博 氏
5. 参加資格： 組合員企業に所属する社員(関連企業に出向されている社員も含む)、また研修終了後感想文等アンケート提出に協力願えること。
6. 参加費用： 無料
7. 研修内容：
 1. アパレル生産機器の知識
 - ・ 実際にミシンを使用し簡単な演習(主にカットソー中心)。各種ミシン、縫い目について、仕上り具合をチェックしながら、その良し悪しの見方を体験学習
 2. 縫製不良の実際
 - ・ 縫製不良の発生原因・理由について、ミシン針・糸、芯地、素材特性、機器調整などの発生原因要素に関する考察
 3. アパレルの裏側(内側)
 - ・ 裏地、パット、芯地、テープなどの副資材の役割や特性について、サンプルを使っての解説
 4. 縫製仕様考察
 - ・ 商品サンプルを用いて、価格、製品グレード、コンセプト等による仕様の相違をアイテム別に解説
 5. 工場の見方
 - ・ 国内外の工場のビデオを見ながら、設備機器、ライン・分業システム、工場管理の基本・ポイントについて解説
 6. 海外生産のための知識
 - ・ 海外の工場ごとの特徴、分業体制等について、国内工場との比較を交え解説



繊維品の包括保険の「保険責任期間終了」と「保険期間延長手続き」(輸出組合)

以下に掲げる保険申込書の「保険責任期間」が、平成 17 年 12 月末日に終了しますので、延長を必要とするものがありましたら、必要書類を添付の上、組合に申請してください。保険責任期間が「6 ヶ月」延長されます。

- * 平成 17 年 6 月に新規提出された決済条件が、「前受け」のもの
- * 平成 16 年 12 月に新規提出された決済条件が、「前受け」以外のもの

(注) 当初の保険責任期間は「前受け」6 ヶ月、「前受け以外」12 ヶ月となっております。

1. 提出期限：平成 17 年 12 月 20 日(火)
2. 提出書類： 貿易一般保険包括保険(繊維品)
 保険期間延長依頼書 2 通
 (用紙は事務局で準備しています。)
 延長を必要とする包括保険申込書のコピー .. 1 通
3. 提出先:保険部(☎06-6201-1832)

なお、延長手続きの FAX による申込みも可能です。(FAX : 06-6201-1814)
 保険期間終了の保険申込書番号は以下の通りです。

前受けに係る 2005 年 6 月度受付保険申込書番号

記号 \ 受付局区分	大 阪	東 京	名 古 屋
J T - 0 5	103844 ~ 104505	101497 ~ 101935	100180 ~ 100213
	504674 ~ 505487		

前受け以外に係る 2004 年 12 月度受付保険申込書番号

記号 \ 受付局区分	大 阪	東 京	名 古 屋
J T - 0 4	109235 ~ 109923	103819 ~ 104098	100480 ~ 100505
	510148 ~ 510903		

お知らせ

「サウジアラビア」向け保険引受方針変更（輸出組合）

このたび独立行政法人日本貿易保険（NEXI）から、“「サウジアラビア」（国コード：137）向けの国カテゴリーを緩和し、実施日より適用する”旨連絡がありましたので、通知します。
この結果、以下の取扱いとなります。

1. 引受態度：通常国（据置き）
2. 引受基準：国倍率 2.0（旧3.0）
3. 実施日：平成17年10月28日

* 国倍率（地域差料率）とは、非常危険てん補に係る保険料計算に適用される基本料率に対して掛けられる倍率です。

なお、ユーザンスが6ヶ月を超えるものは、ベルン・ユニオンのルールに基づき、従来どおり引受けられません。

税関の「特定輸出申告制度」（輸出組合）

財務省・税関より、平成18年3月1日から導入される「特定輸出申告制度」について、次ページの通り、連絡がありましたので、お知らせ致します。

輸出者・通関業者の皆様へ
平成18年3月1日より、

平成17年10月
財務省・税関

特定輸出申告制度

～コンプライアンスの優れた者に対する輸出通関制度～

が導入されます。

Q. 今回導入される特定輸出申告制度とは、どのような制度ですか。

A. 特定輸出申告制度とは、セキュリティ対策の強化と国際物流の高度化に対応した物流促進の両立を図ることを目的として、

- ・ コンプライアンス（法令遵守）の優れた者として税関長の承認を受けた輸出者（以下「特定輸出者」といいます。）については、その自社施設（工場、倉庫等）における輸出通関（輸出申告及び輸出許可）が可能
- ・ 特定輸出申告に対する税関の審査や検査においては、特定輸出者のコンプライアンスがより反映されるため、これまで以上の迅速な通関が可能となります。

この制度の利用により、輸出貨物のリードタイムの短縮、通関手続の予見可能性の向上及びコンテナヤードの混雑回避が期待できます。

Q. 特定輸出申告制度を利用するには、どのようにしたら良いのですか。

A. 特定輸出申告制度を利用するまでの手順は、以下のとおりです。

① 特定輸出者の承認を受けるための申請手続

所定の様式に必要事項を記入し、法令遵守規則及び法人の場合には登記事項証明書（法人以外の場合には住民票の写し等の本人確認ができる書類）を添付して、主たる輸出業務を行っている事業所の所在地を管轄する税関の本関（又は最寄りの官署）に提出してください。

② 税関による承認申請内容の審査と承認通知書の交付

上記①の申請内容を税関において審査（立入調査を含む。）の上、承認する場合には、申請者に対し承認通知書を交付します。

③ 特定輸出申告と許可

上記②の承認を受けた後は、貨物を自社施設に置いたままで輸出申告を行い、輸出許可を受けることが可能になります。

Q. 特定輸出者の承認を受けるための要件と承認後の義務には、どのようなものがありますか。

A. 特定輸出者の承認を受けるための要件と承認後の義務は、以下のとおりです。

① 特定輸出者の承認のための要件

- ・ 過去の一定期間（2年又は3年）内に、関税法又は関税定率法その他の法律の規定に違反して、刑に処せられていないこと。
- ・ 本制度の適用を受ける貨物の輸出業務（税関手続及び貨物管理）を適正に遂行する能力を有していること。
- ・ 法令を遵守するための規則を定めていること。

② 承認後の義務

特定輸出貨物の品名、数量等を記載した帳簿を備付け、貨物の輸出に関して作成し又は受領した書類（例：仕入書、契約書）とともに保存すること（国税の電子帳簿保存法に準じて電子的な保存が可能。）等。

Q. 特定輸出申告制度についてもっと詳しく知りたいのですが、どこに問い合わせれば良いでしょうか。

A. 特定輸出申告制度の詳細については、各税関の統括審査官（法令遵守担当部門）へお問い合わせください。

- | | | |
|----------|----------|-----------------|
| ・ 函館税関 | ・・・・・・・・ | 電話：0138-40-4209 |
| ・ 東京税関 | ・・・・・・・・ | 電話：03-3599-6343 |
| ・ 横浜税関 | ・・・・・・・・ | 電話：045-212-6110 |
| ・ 名古屋税関 | ・・・・・・・・ | 電話：052-654-4169 |
| ・ 大阪税関 | ・・・・・・・・ | 電話：06-6576-3391 |
| ・ 神戸税関 | ・・・・・・・・ | 電話：078-333-3071 |
| ・ 門司税関 | ・・・・・・・・ | 電話：093-332-8503 |
| ・ 長崎税関 | ・・・・・・・・ | 電話：095-828-8667 |
| ・ 沖縄地区税関 | ・・・・・・・・ | 電話：098-862-8251 |

お知らせ

輸出組合本部（大阪）の組織変更

日本繊維輸出組合本部（大阪）は、本年 11 月 1 日付けで、以下の通り組織変更を行いましたので、お知らせ致します。

日本繊維輸出組合本部（大阪）の組織変更

旧	新	電話番号	ファックス番号
総務・企画部 保険部	総務部	06-6201-1812（総務関係） 1832（保険関係）	06-6201-1819 1832 （保険申込用）
業務部 調査統計部	業務部	06-6201-1817（業務関係） 1831（原産地関係） 1815（統計関係）	06-6201-1819
経理部 （変更無し）	経理部	06-6201-1833	06-6201-1819

お知らせ

- 12月の輸入通関手続相談窓口開設日 -

12月の輸入通関手続相談窓口は下記要領により開設します。
申告手続、品目分類、関税評価、暫8手続等々通関業務諸問題
についてご相談の向きはご連絡下さいますようお願い申し上げます。

記

1. 開催日 2005年12月7日(水)及び12月21日(水)
2. 場 所 日本繊維輸入組合 東京本部
3. 時 間 午後1時より午後5時まで
4. アドバイザー 片山 喬次
(元東京税関関税評価部門特別価格審査官)
5. 連絡先

Tel 番号 03(3270)0791

Fax 番号 03(3243)1088

E Mail 0023@jtia.or.jp(片山)

なお、事前の面談申込みや相談窓口開設日以外のお問合わせ、
ご質問につきましては、事務局がお取次ぎ致しますので、本件
事務局担当：国信までご連絡下さい。

以 上

組合員情報

組合員の脱会

(輸 出) 株式会社 タヤ製作所(2005年11月14日付け)

取引照会・展示会案内

[原文は、輸入及び展示会は輸入組合・市場対策室(Tel:06-6202-5575)に保管していますので、必要な向きはご照会下さい。また、輸出の詳細は同組合のホームページ(<http://www.jtea.or.jp>)をご覧ください。]

輸入

No.4308 中国 衣料品

会社名 : DEFU GARMENTS COMPANY LIMITED
 住所 : No.30, South Taishan Road, Deyang City, Sichuan Province, China 618000
 担当者 : Ms Christina Tang, manager of International Trade Department.
 F A X : 0086-838-230-4117
 T E L : 0085-838-230-8017
 品 目 : Leisure Wears, Women's Fashion Wears, etc..

輸入

No.4309 インド 家庭用品

会社名 : SUNLITE EXPORTS
 住所 : 65, Gowripuram Extension, Karur-639 002, India
 担当者 : Mr. S. Nandakumar
 F A X : 91-4324-24-0957
 T E L : 91-4324-24-0959
 品 目 : Home Furnishing Products, such as Tablecovers, Towels, Curtains, Floor Mats, etc..

輸入

No.4310 インド デニム品

会社名 : ARTISTIC DENIM MILLS LIMITED
 住所 : Plot No.7, 8, 9 & 26, Sector No.16, Korangi Industrial Area, Karachi, Pakistan
 担当者 : Mr. Faisal Ahmed
 F A X : 92-21-505-4652
 T E L : 92-21-111-23-6236
 品 目 : Denim Fabrics.

輸入

No.4311 バングラデシュ 衣料品

会社名 : MEER ALA LIMITED
 住所 : G.P.O. Box 2619, Dhaka-1000, Bangladesh
 担当者 : Mr. Faizul Abedin, Director
 F A X : 88-02-956-5317
 T E L : 88-02-956-5331
 品 目 : Men's, Ladies' and Children's all Sorts of Ready Made Garments in Woven & Knit.

輸入

No.4312 バングラデシュ ジュート品

会社名 : MONIR TRADING CORPORATION
 住所 : Shahnawaz Shaban, Room No.11, 2/F., 9/C, Motijheel, C/A, Dhaka-1000, Bangladesh
 担当者 : Mr. Nikhil Chowdhury, Exceutive Director
 F A X : 880-2-956-9032
 T E L : 880-2-955-1079
 品 目 : Jute Yarns, Twines, Bags, Gunny Clothes, Hessian Cloths, etc.